

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2991000031
法人名	社会福祉法人 朱鳥会
事業所名	グループホームかしの木
所在地	奈良県香芝市良福寺 37-3
自己評価作成日	平成29年1月6日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	平成29年2月23日
評価結果決定日	平成29年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

香芝市の象徴でもある、二上山が玄関正面より見え、四季折々の二上山が利用者さんに季節を教えてください。かしの木では、日常生活は、炊事・洗濯・掃除をスタッフと共にコミュニケーションを図りながら行っています。その他には、散歩・レクリエーション等で利用者さんの気分転換・残存機能を保持でき、笑顔で生活していただけるよう努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関先からは、のどかな田園風景とその奥に二上山全体を見ることが出来ます。ホームの印象としては、退院時、身体機能が低下し、車いす対応となった方が、生活の中で歩行される様になる。または、オムツ対応の方が、トイレで排泄をするなど、入居者の立場に立った支援を行い、その人が、その人らしく暮らせる生活を取り戻せるケアを検討し、実践されています。また、法人全体の意識として、困っている方に手を差し延べ、緊急受入の体制等を整えています。今後の取り組みとしては、地域交流や自治会行事の参加への意欲があり、地域に根ざしたホーム、地域福祉の拠点となるホームとして機能する事に期待がもたれます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

ユニット名 (かしの木 2丁目)

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各入居者様の想いを汲み取り、その時々によりやりたいことができる様、また行きたいと思う所に一緒に行き、スタッフと共に笑顔で生活できるよう努め、日々のケアの中で気付いたことを記録にし、共有している。	法人理念を元に、ホームのスタッフで独自の理念を掲げ、月1回の会議で確認をし、理念を共有されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	日頃から、挨拶には気を付け、笑顔で交流ができるよう努めている。	保育園の発表会等の交流や、地域の秋祭りのだんじり運行時の休憩場所の提供などの地域との関わりを大切にしながら取り組んでおられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これから、行っていききたいと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見で、スタッフだけでは気付けないことに気付くことができる。	2か月に1回開催。入居者のご家族、民生委員、行政、協力歯科医が参加されています。ホーム内の活動報告や地域情勢などの情報交換を行い、運営に役立っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日々にある問題を施設長に報告・連絡・相談し、施設長より市町村担当者と連携している。	市行政主催のグループホーム連絡会議に参加し、行政や市内グループホームとの連携が図られ、入居相談、調整を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠している。 身体拘束は、法人内研修等で身体拘束について学ぶ。	ホーム近くに交通量が比較的多い道路があり、安全面から玄関は施錠されていますが、入居者の気分に合わせて、個別に散歩やドライブに行くなどの配慮がなされています。また、法人の研修に参加し、虐待や身体拘束についての学びの場があり、周知されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修内で、虐待について学び、防止に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人個人で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を心がけ、安心して納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望があった際は、施設長や職員と話し合い、反映できるように努めている。	入居者やご家族と日頃から関わりを大切にされ、いつでも意見を聞ける対応をとっておられます。また、入居者各々に担当スタッフを決め、定期的に近況報告の手紙を送付するなど、より良い関係作りに努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中での意見等を、リーダー会議などで話し合いをし、反映できるようにしている。	職員会議で、業務や運営についての意見を集め、管理者、職員が協同で検討し、ホーム運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格等の相談もできるので、助かっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の研修や勉強会で努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームとの交流などもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された当初は、それまでの生活環境なども考慮し、少しずつホームでの生活に慣れていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話等でお話をさせていただき、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にカンファレンスを行い、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の中で入居者様ができることを見つけ、役割を持っていただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族様に入居者様のご様子をお伝えし、本人様の近況を面会時にも話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会や、馴染みの場所へは、出来る範囲で入居者様と行けるよう努めている。	隣接するケアハウスに住む友人との交流や、家族の協力の下外出、入居前のかかりつけ医への受診も可能で、馴染みの場所や関係が途切れない支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様との関係を考慮し、座席などコミュニケーションを図れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期となり入居者様の状態が変わっても、今後の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの物などを置いていただいたり、入居者様にとって居心地の良い環境づくりを整えるよう努めている。	日々の会話の中から希望を聞き取ったり、ご家族から聞いたりしながら、出来る限り希望に添える様、対応を考えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様とコミュニケーションをとるなかで把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに基づき、1日の過ごし方を決め、その日のご利用者の状態を見ながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録・入居者様・ご家族の意向を伺いながら、ケアプランを作成している。	概ね3か月に1回の見直しを行っています。また、必要に応じて随時見直しを行い、実状に沿った計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を当日の職員で記入し、会議の際に話し合い見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様にとって、より良い生活を送れるよう、様々な方法で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では、市の高齢福祉課・地域包括支援センターの担当者様や民生委員の方が参加され、地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様が希望される、かかりつけ医の受診を支援している。	ホームの協力内科医、歯科医の定期往診があります。また、体調不良時は随時、協力医療機関へ受診する等の体制をとっておられます。また、入居者、家族が希望する医療機関への受診も可能です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がないため、協力医療機関の担当医に連絡をとり、入居者様にとって適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、施設での状態を説明し、入院中は都度相談等をさせていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の対応を、入居者様及びご家族に説明している。	重度化した場合や終末期の対応は、基本的には、対応可能な施設や病院への紹介をする方針ではありますが、入居者の様子や家族の意向を確認し、相談、調整は可能で、その時の状況に合わせて対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各自救命講習会を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている。中で、1回は、消防署立ち会いで行っている。非常時に備え、飲料水は1週間、お米は1ヶ月分備蓄している。	年2回訓練を実施。1回は消防署の立ち合いの下で行っています。夜間想定訓練も実施しています。	定期的に避難訓練を行っていますが、実際、災害発生時には、スタッフのみの対応では限りがあります。地域住民が参画しての訓練や働きかけにより、地域住民の協力を得られる事に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中で、気をつけて対応している。	入居されている方は人生の先輩であるスタッフに意識づけをされ、言葉遣いやお声かけ、居室に入る時はノックをするなど、一人ひとりの人格を尊重しながら取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の想いを汲み取るように努め、出来るかきりやりたい事をしていただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調等も考慮し、その人らしい生活が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服等は限られているが、化粧をされる入居者様もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく美味しく食事が出来るよう、盛り付け等に気を付け、食事の準備や片付けを入居者様とスタッフで行っている。	三餐、ホーム内で自炊しています。調理や盛り付け、片付けを入居者の方と一緒にされています。また、時には外食に出かけたり、移動販売業者に協力を依頼し、ホーム前に夜鳴きそばの屋台を手配するなど、食べるの楽しむ事の工夫があります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量等、しっかりと記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを知り、時間を見てトイレ誘導・声掛けを行っている。	排泄パターンを把握し、出来る限りトイレで排泄を行える様、支援しています。病院からの退院時、身体機能の低下によりオムツ対応となっていた方が、トイレで出来る様に支援するなど、状態に合わせたケアを行い自立支援に心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝一番の牛乳や、食後のヨーグルト又、蠕動運動等を行い予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声掛け誘導で、拒否があった場合、足浴や清拭更衣等で対応し、無理強いはず、支援している。	お一人、週2回から3回入浴をされています。本人のペースに合わせて対応されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況・状態に応じて、安眠していただけるよう支援している。また、安眠していただけるように、湯たんぽを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服用されている薬を理解し、体調などに変化が無いのか、また入居者様にとって現在の薬で合っているのかを日々様子を見ながら変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の関わりの中で、役割となること、又楽しそうにされていることを見付けながら支援していけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会が持ていないが、散歩やドライブは時間を見つけて一緒に行き、また、日帰り旅行には、利用者様皆さんで楽しんで出掛けられるよう努めている。	散歩やドライブなど個別に対応しています。また、年に2回、日頃、行けない場所へ行き思い出となる様、日帰り旅行を企画しています。	加齢に伴い、入居者の方の心身の状態の低下は否めませんが、「その時にしか出来ない事をして欲しい。」と話されていました。入居されている方の立場に立った支援を考えておられる姿勢が伺えます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していただいていませんが、必要なものは購入できるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援できていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に保ち、居心地よく過ごしていただけるよう努めている。	天井が高く、広々としたリビング、南側は全面ガラスで明るい光が入り、解放感があります。また、リビングから離れた場所にソファがあり、他者と離れて気分転換が出来る様、工夫されています。脱衣場には「冬場は寒い」と意見もあり暖房設備を設置するなど、意見を反映しながら工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座りながら過ごしていただいたり、居室で他利用者様と話しをしていただいたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく、馴染みのものを使用していただけるよう工夫し、居心地よく過ごしていただけるよう努めている。	エアコン、ベッド、クローゼットが完備されています。馴染みのタンスや趣味の道具などの持ち込み、また、家族の写真が飾られるなど、居心地の良い空間づくりがなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所等、分かりやすいよう誘導し、安全に生活していただけるよう工夫している。		